

アフタートーク

以下は当初作品紹介ページ用のために書き始めました各Phase終了直後の彼女らのたわいもない会話です。

幸か不幸かその結果、本来の目的と文字数を大きく逸脱したものとなってしまいましたためこのような形で付属させていただきます。

人によっては作品のイメージひいては光ちゃん萌ちゃん両名に抱くイメージを大幅に損なう可能性を孕んでおります。しかし作品外でもなお存在し続ける彼女らの姿を描いたつもりです。

本編を楽しんでいただいただけにとどまらず、さらにお付き合いしていただけると作者冥利につきます。

ちなみに「」が光ちゃんて『』が萌ちゃんです。ここまで一読してくださり感謝いたします。それではお楽しみください。

index

(クリックするとジャンプできるはずですが(できなかつたらごめんなさい))

[Phase1](#)

[Phase2](#)

[Phase3](#)

[Terminal Phase](#)

Phase1:パフェたべたい

(ワンコイン貢ぎマゾ～アフタートーク～)

「いや～ちょろいちょろい～♪何食べにいく？もえもえ～？」

『それじゃ萌パフェ食べたいですう～♥』

「ちょっとお高くてめっちゃうまいところあるけどそこいく？」

『どんなパフェなんですう～？』

「うーん三種類あって一つチョコ。これがいつでも食べられるの。」

『あとの二種類はなんなんですかあ～？』

「あとは季節限定特別メニュー♪だから行くまでなにがあるかお楽しみ♪」

『うわあ～♪楽しみです～♪』

「どうせうちらのお金じゃないしばあーっとつかっちゃお♪」

『そうですねえ〜♥優しいお兄さんに感謝しないといけませんねえ〜♥』

「いやいや感謝するのはまだはやいっしょwあいつまだまだ絞りがいありそうだしw」

『ああ〜それで"サービス"してあげたんですかあ〜？』

「そう♪じゃなきや耳舐め手コキとかキモいっしょw？」

『う〜んそうですねえ〜耳舐めは確かにて〜こうありますけど手コキ結構好きですよ〜？』

「マジ？キモいじゃんあれシコシコすんのかwしかも顔見るとさあ〜だいたいキモい顔してるし」

『それがかわいいじゃないですかあ〜♥』

「え？ちんこが？顔が？どっち？」

『両方♪』

「え...マ？」

『マジです♪』

「ごめんもえもえうちじゃ分かってあげられそうにないわ〜」

『えーかわいいじゃないですかあ〜♥というより光ちゃんもお兄さんに言ってたじゃないですかあ〜♥』

「あれはああいうと大体喜ぶじゃん？ってかさそういうところもキモくない？あれ？」

『だからそこがかわいいんじゃないですかあ〜♥』

「いやいやキモいっしょw」

『キモくないですよお〜♥あんまりキモいっていうとお兄さんかわいそうですよお〜』

「えー今あいついないしいいじゃん！許してよお〜」

『じゃあパフェ3つで許してあげます♥』

「関係ないじゃん！ってか3つもいくの！？太るよ！？」

『なんのことですかあ〜♥』

「あー全部この乳にいくのかあ〜このでかちちめえ〜！！」

『んんっいきなり触っちゃダメですう〜光ちゃんもお〜パフェいっぱい食べたらおっきくなるかもしれませんよ♥』

「うっさい！！余計なお世話！中庸！！うちはこれで満足してんの！！」

『ふふふ』

「笑うな――」

Phase2:バラの名は

(チックタックノータッチ射精募金〜アフタートーク〜)

「すごいよもえもえ〜♪見てこの札束〜♪さっすがにあいつに感謝しなきゃだね〜キモかったけど」

『そうですねえ♥あれできるんじゃないですかあ〜？』

「あれ？」

『扇子みたいにパタパタってできそうじゃないですかあ？』

「よゆーよゆーほれ♪」

『ああん♥心地いいですう〜♥』

「ほれほれ〜よいではないか〜♪よいではないか〜♪」

『ユキチさんダメですう〜♥』

「え？今ユキチじゃない？」

『あれ違うんですかあ〜？ほ

「れ今エイイチっしょ？最近変わったじゃん♪ほら♪』

『ほんとだあ〜♥知らないおじさんになってますう〜♥』

「マ？」

『マジです♪』

「だから赤点ぎりぎりなんだよもえもえ〜」

『だって光ちゃんがなんとかしてくれるじゃないですかあ〜♥』

「何とかする身にもなってよお〜毎回カンペ作んのめんどーなんだよ〜？」

『でも光ちゃん萌別に赤点でもいいんですけど〜』

「ダメ目付けられるじゃん！」

『でも萌だけですよ？』

「もえもえいないと今日みたいなことできないし…」

『へえ〜それだけですか〜？別にあれ毎日やってるわけじゃないじゃないですかあ〜♥』

「もえもえうちに何か言わせたいでしょ？」

『なんのことですかあ〜♥』

「……」

『ふふ♥』

「……うち時々思うんだけどもえもえ実は勉強できるっしょ？」

『そんなことないですよお〜♥しいて言うなら〜♥』

「？」

『女の勘です♪』

「…うちも女なんだけど」

『じゃより女性ってことで♥』

「わけわかんないよ！ジェンダーフリーで言ってよ！！」

『萌難しい言葉わかんないですう〜♥』

「はあ…うち今日のもえもえ嫌い」

『ええ〜光ちゃんすねないでくださいよお〜♥』

「やだ口きたくない！」

『せっかくいっぱい募金してもらったんですからあ〜ケーキ屋さん行きましょうよお〜♥』

「ぬ〜!!!」

『あそこのピンクのケーキに夢中だったじゃないですかあ〜♥』

「ぬ〜!!」

『マカロンみたいですっごいかわいかったじゃないですかあ〜♥』

「ん〜!」

『ピンクのケーキ食べましょうよお〜♥』

「イスパハンでしょ!!うるさいなあ〜食べるよ!!」

『やったあ〜♥そんな名前だったんですねえ〜♥あのケーキ♥』

「うちあの時何度も言ったと思うんだけど少しは覚えてよ〜もえもえ〜」

『でも光ちゃんがこうして教えてくれるじゃないですかあ〜♥』

「まーたそういうこと……」

『感謝してます♥光ちゃん♥』

「…ずるい」

Phase3 : ロックンロールケーキ

(A・T・M〈ALL TAKEN MASO〉〜アフタートーク〜)

「はあいバカマゾお財布お兄さん♪早く受け取りに行く行く〜♪」

『萌たちここで待ってますから早くしてくださいね♥』

「…」

『…』

「『…』」

「……ってかさめっちゃスースー気にならない？」

『…しますねえ〜♥』

「あれにあげちゃったもんね〜」

『もしかして光ちゃんこーかいしてます？』

「いやいやあれ履く方が無理っしょ」

『くすw光ちゃんまだいいじゃないですかあ〜♥萌のなんてお兄さんの精液いっぱいついてたんですよお〜♥』

「うちだってあのバカの唾液いっぱいついてたもーんきもーい」

「ってかさ!ってかさ!あのバカあの飴全部食べきってんのもっとキモくない？」

『くふふw確かにキモいのは賛成しますけどお〜精子塗りたくって食べろっていったの光ちゃんじゃないですかあ〜♥』

「マ？」

『マジです♪』

「あーマジだぁ...そうだったー」

『珍しいですね♥萌の方が覚えてるなんて♥』

「たまたまだよ♪たまたま♪」

『そうですかぁ〜？』

「そう♪」

『でもついさっきのことですよ？』

「うっさいなぁーしつこいもえもえうちきらーい」

『ごめんなさあい♥心配したんですよ〜♥』

「心配？」

『こーかいしてるんじゃないかないかなあって♥』

「？いやだからしてな...い...」

「...」

「...」

「あぁ...うーん...」

『どうなんですかぁ〜♥』

「うーん...まぁ行けば分かるっしょ♪」

『なんですかぁ〜それえ〜？♥答えになってませんよぉ〜♥』

「えーうちちゃんと答えたんですけどー♪」

『萌に分かるように話してくださいよぉ〜♥』

「それも行けば分かるってことだよ♪もえもえ♪」

『はぐらかされた気がしますう〜♥』

「あっ♪お財布が帰ってきたきた〜♪」

『ほんとだ♥ちゃんと戻ってきてエラ〜イですねえ♥』

「早速借りてきたものちょうだいお兄さん♥」

『くださいです♥お兄さん♥』

「うちらをノーパンで待たせてさらにこれ以上待たせないの♪」

『そうですよぉ〜♥ヒドイじゃないですかぁ〜♥』

「はい毎度あり〜頑張って返すんだよー♪」

『ファイトです♥お兄さん♥』

『あとぉ〜お兄さん♥最後に一つ忘れてませんかぁ〜♥』

「確かに〜♥いつものあれ言わせてあげる♥」

「『さんはい♥』」

「『どういたしまして♥またの募金お待ちしております♥』」

Terminal Phase: HAPPY～die Zwei Wandervogeln～

(Lost one～アフタートーク～)

「あーあ結局ただ働きとかサイアクー」

『ほんとお兄さん最後までほんと気持ち悪かったですう～♥』

「もえもえ今日すごい拒否ってたね～さすがのあいつも結構キテたよ～？」

『だってえ～前から思ってたんですけど萌抱きつかれる率たかくないですかあ～♥』

「まあうちよりもえもえの方が優しくしてくれそうってのはわかる♪あと抱き心地いいし♪」

『ああん♥光ちゃん♪ダメですう♥』

「ほれほれ～♥もえもえはあ～うちにもさっきみたいに舌打ちするのかにや～？」

『するわけないじゃないですかあ～♥でもお～恥ずかしいからやめてくださいよお～♥』

「そういわれるとやりたくなっちゃうんだよねえ～♥」

『きゃっ♥そこお～♥ダメえ～♥』

「そこってどこかな～？ここかな～？」

『そこはもっとダメですう～♥』

「くっ...ふふあははははははははは」

『ふっ...ふふふふふ』

「あーおもしろかったw」

『萌はおもしろくないですよお～♥光ちゃんいつもより激しくないですかあ～？♥』

「えーそう？でも笑ってたじゃーんw」

『光ちゃんが笑うからですう～♥』

「イミわかんないそれ～♥」

『これからどうします光ちゃん♥』

「お腹空いたしなんか食べよ～お金はいっぱいあるからね♪」

『たしかに♪』

「なに食べる？」

『んー♥あっ♥萌一つだけ思いつきましたあ～♥』

「ふふ♪うちも♪じゃあせーのと言ってみよっか♪」

「『せーの』」

「『クレープ♥』」

『マ？』

「マジです♪」

『「あははははははは」』

「あはははどう？うちもえもえの真似うまくない？」

『もう♥全然ちがいますよお〜♥萌そんなじゃありません〜♥』

「うちだってそんなム力つく感じじゃありません〜♥」

『結構似てると思いますよお〜♥』

「それどういう意味〜?!」

『そのままの意味です♥』

「言ったなあ〜♥」

『言っていないですよお〜♥』

「そんなこと言うのはこの乳か♪」

『やあん♥おっぱい関係ありませんよお〜♥』

「いや生意気なおっぱいしてるから生意気になるんですぅ〜♥」

『じゃあ光ちゃんはもっと大きくないとダメですねえ〜♥』

「ぬー!!」

『あはははは光ちゃん♥怒るか揉むかどっちにしてくださいよお〜♥その顔面白いですぅ〜♥』

「ぬー!!!もえもえが泣いて許し請うまで揉むー!」

『ダメですぅ〜その顔じゃ笑っちゃいますよお〜♥』

「じゃダメ♪揉む!」

『クレープ食べましょうよお〜♥せっかく目の前にあるんですからあ〜♥』

「揉みながら食べる!!!」

『クリーム制服についちゃうじゃないですかあ〜♥』

「心配するところそこ!？」

『あっ♥もとに戻りましたね♪』

「あーしまったあ〜」

『じゃあクレープ♪食べましょ?』

「はいはいわかりましたよーだ♪」

『あの〜光ちゃん萌2つ頼んでいいですか?』

「またそんな...食べると太るよー」

『違います♥』

「?...あーうんそうだねえ〜」

『ダメですか?』

「うん。ダメ。」

『ダメですか。』

「そりゃそうっしょ♪」

『ですよ〜♪』

「...」

『...』

「『...』」

『じゃあ3つとも萌のだったらいいですかあ〜？』

「くっwうちの分まで勝手に食べるなー！！」

「『くす♪』」

「『ふふふあははははwww』」

『じゃあ2つで我慢するんでえ〜もう一つ頼んじゃダメですか？光ちゃん♥』

「うーん♪ダメ♥」

『えー♥なんでですかあ〜♥』

「ふふ♪2つ目は二人で半分こ♪一緒に食べてあげよ」

『くすっ♪そーですね♪じゃあフルーツとクリームとチョコもマシマシにしていいいですか？』

「ええ〜そんな食べんの〜うちそんな食べられないんだけど〜」

『萌が食べるから大丈夫です♥』

「半分こじゃないじゃん！！」

『細かいこと気にしちゃダメですよお〜光ちゃん♥』

「ぬーどうしてそんなに食べててこれがこれでそこがそんだけなのー！！」

『ふふ♥なんでですかねえ〜♥』

「...もえもえうちのことバカにしてるっしょ？」

『そんなことないですよー♥でもお〜♥』

「でも？」

『子供みたいでかわいいなーって♥』

「やっぱりバカにしてるじゃん！！」

『褒めてるじゃないですかあ〜♥』

「うちの望む褒められ方じゃない！！」

『わがままですねえ〜♥』

「撫でるなー！！」

『おっぱいのお返しです♥』

「あーもう！揉むんじゃなかったー！」

『萌ばっか揉まれてふこーへいですからなでなでさせてくださいよお〜♥』

「ふこーへいなおっぱいが悪い！！」

『はいはいふこーへいですねえ〜♥』

「うわー受け流されたーw」

『だって光ちゃんの髪サラサラでいい匂いするんですもん♥』

「もえもえだってつやつやでめっちゃいい匂いするじゃん♥うち大好きだよ♪」

『ふふ♥じゃあお互い様ですねえ〜♪』

「ふふ♪お互い様だね〜♪」

「『ねー♪』」

Fin

お〇けの〇まけのおま〇

こんなところまでご覧いただきありがとうございます。

イースターエッグといえますか隠し要素っていいですね。

わくわくして僕は大好きです。

なので自分でもやります。

最後の最後のおまけとして作中でどうしても気がかりだった箇所を補完する閑話を紛れ込ませておきます。

気になった箇所というのは

「Phase2でなぜ男が60万円以上引き出していたのか？」

です。

この箇所が脚本作成時から収録編集を経て今に至るまで奥歯に挟まるほうれん草並に気がかりでしたのでこの場をお借りしてすっきりさせておきます。

気になる方お暇な方大したお話ではないですが今しばらくお付き合いいただきましたら光栄恐縮痛み入ります。

(※カッコの見方は上のアフタートークと変わりません。)

～ATM前にて～

「はあい到着♪お兄さんにはいくら引き下ろしてもらおっかなあ～？」

『いくらにしましょうか？光ちゃん？』

「二度手間だと面倒だし限度額いっぱいじゃっしょ？」

『光ちゃんダメですよお～♥お兄さんびっくりしてますよお～♥』

<小声で>

「でもうちらが何万円欲しいって言ったら意味ないじゃん？それにあれだとうちらもいくらになるかわからないしね～」

『そうですね～とりあえず限度額いっぱいまで引き出してもらえるようにおねだりしましょうか♥』

<ここまで小声>

「ってことでえ～」

「限度額いっぱい引き出して♥お兄さん♥」

『限度額まで引き出してくださいよお～♥お兄さん♥』

『そしたら萌たち～もっとお兄さんに募金してもらうように頑張っちゃいますう～♥』

「うちらお兄さんにいっぱい募金してもらえるように一生懸命頑張るからお兄さんも誠意見せてほしいなあ～♥」

『この前の耳舐め手コキ覚えてますかあ～？シコシコ♥ペロペロ♥気持ちよかったですかあ～？』

「今度はどんなことされちゃうのかなあ～？JK2人にどこまでめちゃくちゃにされちゃうのかなあ～？」

『とりあえず下ろすだけですから♥限度額まで下ろしてくださいよお～♥』

「下ろしてくれたらあ～うちの靴下あげよっかなあ～？」

『萌たちが今日一日履いた靴下♥少し恥ずかしいですけどお～やさしいお兄さんならあげてもいいですよお～♥』

「JKの生の靴下を今なら手数料払うだけで手に入れることができるんだよお～♥」

『しかもお兄さんの目の前でぬぎぬぎ♥しちゃいます♥』

「だからそれくらいできるよね？お兄さん♥」

『お願いしますね♥お兄さん♥』

「『ちゅ♥』」

「はいじゃうちらここで待ってるからよろしくね♥」

『萌たちとの約束ですよ♥守ってくださいね♥お兄さん♥』

Fin

ここまでお読みくださりありがとうございます。

読んでいただいた皆さまへのお礼になるかは分かりませんがサークル用メールアドレスをおいておきます。

もしご意見ご感想おしこり報告罵詈雑言がありましたらこちらにお送りください。

btbtbtbtbtbtbtbtbtbt@gmail.com

そういえばついで今まで大っぴらに公開してませんが僕の一人言製造機と化してるツイ垢は下になります。

[@butabutabetable](https://twitter.com/butabutabetable)

正直平日はほとんど見れませんしじゃあ休日も見てるかということそうでもない存在意義が怪しいアカウントです。

そのうえいまいちたまにつぶやいてもおもしろくもなく作品とは無関係なことをつらづら述べてるだけですのでフォローしても鼻の下にある筋くらいに無益ですのでご承知ください。

それではこれでほんとのホントに終わりです。

また次回作でお会いしましょう。

僕からは以上

あったかくして寝ろよ～